

# TOKYO WONDER SITE SHIBUYA CLOSING EVENT

トーキョーワンダーサイト渋谷 クロージング・イベント

## トーキョーワンダーサイト渋谷、最終日 9月17日(日) にイベント開催！！

2001年より若手アーティストの発掘、育成、支援を行っているトーキョーワンダーサイト（TWS）の2館目として2005年に開館したTWS渋谷。国内外のオルタナティブスペースや国際的な芸術文化機関との連携プロジェクトをはじめ、国際的に活躍する海外のクリエイターや日本の若手クリエイターを紹介するなど、既存の美術館やギャラリーの枠組みを超えたスペースとして活動してきました。このたび東京都現代美術館が運営する「(仮称)東京都渋谷公園通りギャラリー」として再整備するため、9月末で運営を終了します。TWS渋谷では、最後の開館日となる「渋谷自在—無限、あるいは自己の領域」の最終日19:00より、これまでにTWSのプログラムに参加してきたクリエイター等を迎え、クロージング・イベントを開催します。TWS渋谷での最後のパフォーマンスをお見逃しなく！

## ■ 開催概要

イベント名： トーキョーワンダーサイト渋谷 クロージング・イベント  
会 期： 2017年9月17日(日)  
会 場： トーキョーワンダーサイト渋谷 (東京都渋谷区神南 1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館 1F)  
時 間： 19:00~20:30  
入 場 料： 無料  
主 催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 育成支援課  
クリエイター： オル太+開放回路、西原 尚、潘 逸舟  
ウェブサイト： <http://www.tokyo-ws.org>

### <お問い合わせ>

〒135-0016 東京都江東区東陽7-3-5 東京都現代美術館リニューアル準備室3F  
公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 育成支援課  
トーキョーワンダーサイト 広報担当：市川、荻田、藤井  
TEL: 03-5633-6373 FAX: 03-5633-6374 E-mail: [press@tokyo-ws.org](mailto:press@tokyo-ws.org)

\* トーキョーワンダーサイトは、平成29年4月より東京都現代美術館育成支援課として事業運営を行っています。  
\* トーキョーワンダーサイトは、平成29年10月1日より「トーキョーアーツアンドスペース」に名称を変更します。

## ■ クリエータープロフィール

### オル太+開放回路

2017 年より日本と韓国における祭りや芸能を通じて、現代における伝承のあり方をリサーチするプロジェクトを共同で実施。今回のパフォーマンスでは、2017 年 11 月の「開放回路」(ソウル)での上演に先駆けて「伝承 Pang Pang ヴ(ニュー)」(仮)を発表します。



オル太《Walking Cascade》(釜山ビエンナーレ 2016)  
Photo: Keunha Cho

### オル太 | OLTA

「2013 年度 二国間交流事業プログラム<ベルリン>」、  
「2012 年度 国内クリエイター制作交流プログラム」などに参加

1983 年から 1988 年生まれの多摩美術大学絵画学科油画専攻出身の 6 名からなる表現集団。メンバーは井上徹、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi。

主な展覧会に「釜山ビエンナーレ 2016 Hybridizing Earth Discussing Multitude」(釜山、韓国、2016)、「FAKE BONES」(Lilith Performance studio、マルメ、スウェーデン、2015)、「内臓感覚ー遠クテ近イ生ノ声」(金沢 21 世紀美術館、石川、2013)。



### 開放回路 | OPEN CIRCUIT

イ・ヒョンイン、チョ・グナ、パク・イヒョンの 3 名からなる、ソウルに拠点を置くインディペンデントアートスペース。

1960 年代から電気街やサブカルチャーとして知られた韓国最初の複合施設「世運商街」の一角で、2014 年から展覧会や上映会、パフォーマンスなど様々なプログラムを開催すると共に、コレクティブとして独自の企画を展開する。



**西原 尚 | Nao Nishihara**

「2014 年度 二国間交流事業プログラム<ベルリン>」参加

「トーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバル Vol.8」TEF サウンド・インスタレーション部門 特別賞受賞

「渋谷自在—無限、あるいは自己の領域」参加

楽器や木材、金属など見慣れたものを素材に、聞いたことのないような音を作り出して好奇心をくすぐり、聴衆の可能性を追求する作品制作やパフォーマンスを行っています。今回は「渋谷自在—無限、あるいは自己の領域」での展示作品《音の生活》を舞台に、音と視覚、身体を使った表現を試みます。

1976 年生まれ。神奈川県を拠点に活動。2011 年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。

主な展覧会に「CYFEST 10」（サンクトペテルブルグ、ロシア、2017）、  
「六本木クロッシング 2016」（森美術館、東京）、主なパフォーマンスに「Experimental Intermedia」（ニューヨーク、2016）、「Issue Project Room」（w/Aki Onda、ニューヨーク、2016）など。ACC グランティイー（2015）受賞。

**潘 逸舟 | Ishu Han**

「2013 年度 二国間交流事業プログラム<メルボルン>」参加

「2012 年度 国内クリエイター制作交流プログラム」参加

「渋谷自在—無限、あるいは自己の領域」参加

「アイデンティティ」をテーマとして自らの身体を用いた映像作品を軸に、インスタレーションや写真、絵画などを発表しています。パフォーマンスをとおして、社会の中での自己と他者の関係性を浮かびあがらせます。

1987 年生まれ。東京都を拠点に活動。2012 年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。

主な展覧会に「The Drifting Thinker」（MoCA パビリオン、上海、2017）、  
「ESCAPE from the SEA」（National Visual Arts Gallery、クアラルンプール、マレーシア、2017）、「Sights and Sounds: Highlights」（ジューイッシュ・ミュージアム、ニューヨーク、2016）など。ACC グランティイー（2014）、新鋭賞（展覧会「在地未来」、何香凝美術館、中国、2013）受賞。

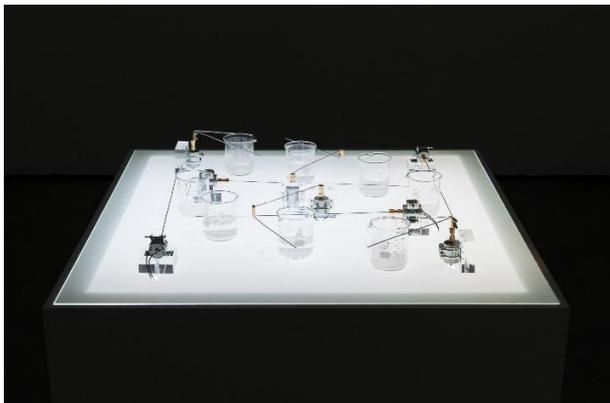


## 「渋谷自在—無限、あるいは自己の領域」開催中！

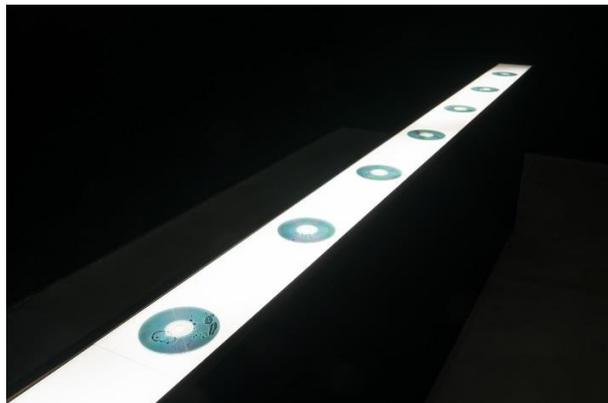
会期：2017年7月29日（土）～9月17日（日） 開館時間：11:00～19:00（最終入場は30分前まで）

クリエイター：大野茉莉、西原 尚、潘 逸舟

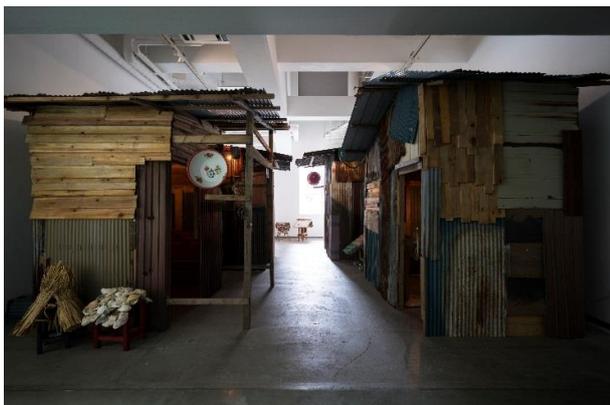
■ 広報用画像 写真：加藤 健 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。



1 大野茉莉  
《transition [characteristic]》 2017  
モーター、ワイヤースティック、ビーカー、水、塩



2 大野茉莉  
《transition [systemic]》 2017  
CD、スクリーンプリント・フォトグラム



3 西原 尚  
《音の生活》 2017 ミクストメディア



4 西原 尚  
《音の生活》 2017 ミクストメディア



5 潘 逸舟  
《海で考える人》 2016 映像



6 潘 逸舟  
《囚われた海、降り注ぐ雨》 2017 油彩、キャンバス